

2021年3月期 第2四半期決算報告 (2020年4月1日～2020年9月30日)

1. 第2四半期決算

- 第2四半期(7-9月期)は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大による影響は残るものの、欧州、米州を中心に想定を上回る需要回復、および緊急コスト削減プロジェクトの徹底により、第1四半期対比で売上高は1,296億円と41%改善、営業利益は38億円と黒字化
- その結果、上期累計(4-9月期)では、第1四半期にCOVID-19による需要急減の影響を受け、前年対比減収減益ながら、営業利益は32億円と黒字で着地
- 損益の改善に加え、グローバルでの継続的なコスト削減、投資抑制、運転資本改善活動(主に在庫削減)が奏功し、第2四半期のフリー・キャッシュ・フローは125億円(第1四半期は△467億円の赤字)と大幅にプラス転換。9月末の手元流動性は現預金残405億円、未使用融資枠残748億円と、6月末の水準を維持

<連結損益計算書>

(億円)	2020年3月期			2021年3月期			累計増減
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	
売上高	1,471	1,415	2,886	919	1,296	2,215	△671
営業利益	88	61	149	△6	38	32	△117
営業利益率	6.0%	4.3%	5.2%	-	2.9%	1.4%	
個別開示項目(COVID-19関連)	-	-	-	△115	△13	△128	
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益(△損失)	88	61	149	△121	25	△96	△245
個別開示項目(その他)	△6	△16	△22	-	△8	△8	
金融費用(純額)	△35	△28	△63	△24	△30	△54	
持分法による投資損益	5	3	8	△4	2	△2	
税引前利益(△損失)	52	20	72	△149	△11	△160	△232
当期利益(△損失)	31	△7	24	△165	△7	△172	△196
親会社所有者に帰属する当期利益 (△損失)	29	△10	19	△164	△9	△173	△192
EBITDA	175	142	317	61	127	188	△129
参考：フリー・キャッシュ・フロー	△268	△20	△288	△467	125	△342	△54

<各事業の概況(セグメント別売上高・営業利益は別表参照)>

建築用ガラス事業	第1四半期の需要減の影響を受け、累計では減収減益だが、第2四半期は需要回復とコストダウン効果により前年対比増益。太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
自動車用ガラス事業	累計では減収減益だが、6月以降は北米を筆頭に徐々に需要が回復し、第2四半期では営業利益を確保
高機能ガラス事業	COVID-19に伴う欧州自動車市場向け製品の低迷が継続。それ以外の製品は比較的安定

2. 通期業績予想（上方修正）

- ・ 上期実績が前回予想対比で、売上高（+115 億円）、COVID 関連個別開示項目後営業損失（+54 億円）ともに改善したことを踏まえ通期業績予想を、売上高 4,800 億円（前回予想比+200 億円）、COVID 関連個別開示項目後営業損失 △70 億円（前回予想比+130 億円）とそれぞれ上方修正
- ・ 事業、地域の差はあるも年度末までに売上高は前年並み水準への回復を想定
- ・ 通期の最終損益予想は、個別開示項目を含めた損益見通しが明らかになった段階で改めて開示

（億円）	2021年3月期 上期予想 （前回）	2021年3月期 上期実績	2021年3月期 下期予想 （前回）	2021年3月期 下期予想 （今回）	2021年3月期 通期予想 （前回）	2021年3月期 通期予想 （今回）	2020年3月期 通期実績
売上高	2,100	2,215	2,500	2,600	4,600	4,800	5,562
営業利益／（△損失）	-	32	-	60	-	90	212
COVID関連個別開示項目後 営業利益／（△損失）	△150	△96	△50	30	△200	△70	190
個別開示項目（その他）	△10	△8	-	-	-	-	△218
金融費用（純額）	△60	△54	-	-	-	-	△118
持分法による投資損益	0	△2	-	-	-	-	11
税引前利益／（△損失）	△220	△160	-	-	-	-	△135
当期利益／（△損失）	△240	△172	-	-	-	-	△175
親会社の所有者に帰属する 当期利益／（△損失）	△240	△173	-	-	-	-	△189

3. 今後の見通しと事業方針

- ・ コロナ後の事業環境を見通し、厳しい状況認識と強い危機感に基づき、抜本的な事業構造改革に着手。聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す
- ・ 10月にチーフ・トランスフォーメーション・オフィサー（CTrO）を任命。CEO 直属チームで事業構造改革に取り組む

<2021年3月期 第2四半期決算説明資料より抜粋>

事業構造改革の実施

聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す



コスト構造改革

2022年3月期に3桁億円のコスト改善効果を創出

- 早期に安定した利益・キャッシュを創出できるコスト構造に変革
- 固定費の大幅削減（2,000人規模の人員削減）
- 生産・購買コストの抜本的改善

成長の加速

今後の需要動向の変化を踏まえた事業ポートフォリオの変革

- 太陽電池パネル用ガラスなど成長分野の早期利益貢献、VA化継続
- クリエイティブ・テクノロジー事業部門の新設による新規事業立ち上げのスピードアップ

組織・業務改革

スピード感と緊張感のある経営体質への変革

- 経営体制の見直し・管理階層の削減・権限移譲による意思決定と実行のスピードアップ
- 結果へのコミットとアカウンタビリティの徹底

- 引き続き、資産・事業売却を含む資金・利益創出を検討・推進
- 事業構造改革を織り込んだ新中期経営計画は適宜公表予定

* 個別案件の業績影響は判明し次第適宜公表予定

2020年11月5日 | 2021年3月期第2四半期決算報告

<参考：セグメント情報>

(億円)	2020年3月期			2021年3月期			増減		
	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計	4-6月期	7-9月期	累計
売上高: 建築用ガラス	599	598	1,197	449	542	991	△ 150	△ 56	△ 206
欧州	232	221	453	160	222	382	△ 72	1	△ 71
アジア	224	246	470	192	186	378	△ 32	△ 60	△ 92
米州	143	131	274	97	134	231	△ 46	3	△ 43
営業利益	57	41	98	27	46	73	△ 30	5	△ 25
売上高:自動車用ガラス	768	714	1,482	387	666	1,053	△ 381	△ 48	△ 429
欧州	335	294	629	166	267	433	△ 169	△ 27	△ 196
アジア	174	172	346	99	159	258	△ 75	△ 13	△ 88
米州	259	248	507	122	240	362	△ 137	△ 8	△ 145
営業利益	40	12	52	△ 29	5	△ 24	△ 69	△ 7	△ 76
売上高:高機能ガラス	101	101	202	81	84	165	△ 20	△ 17	△ 37
欧州	17	18	35	13	14	27	△ 4	△ 4	△ 8
アジア	80	79	159	65	68	133	△ 15	△ 11	△ 26
米州	4	4	8	3	2	5	△ 1	△ 2	△ 3
営業利益	18	17	35	14	11	25	△ 4	△ 6	△ 10
売上高:その他	3	2	5	2	4	6	△ 1	2	1
営業利益	△ 27	△ 9	△ 36	△ 18	△ 24	△ 42	9	△ 15	△ 6
売上高:合計	1,471	1,415	2,886	919	1,296	2,215	△ 552	△ 119	△ 671
営業利益	88	61	149	△ 6	38	32	△ 94	△ 23	△ 117

決算関係問い合わせ先（IR部） 03-5443-0100

報道関係問い合わせ先（広報部） 03-5443-9477